

## 編集後記

『歴史学研究センター年報』第4号をお届けします。今回は今年度の国際シンポジウムにおける講演および全体討論と、昨年度と今年度の二つの公開講座の講演を中心に収録しましたので、例年に比べて分厚いものとなりました。講演者・報告者の方々には、いずれも明快に設定したテーマについて御発言いただきました。また、岡本明先生からも御論考をお寄せ頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

来年度は、オープン・リサーチ・センター整備事業「フランス革命と日本・アジアの近代化」も最終年度となり、ひとまずの区切りの年を迎えます。専修大学図書館所蔵の4万数千点にのぼるフランス革命史料群「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」を基本にしたシンポジウムなどを企画しております。

昨年は9月に「国旗・国家」に関わる判決が出され、12月には教育基本法が改定されるなど、近年ますます「国民」であるということとはどのようなことかという問題が問われております。国民国家の嚆矢としてのフランス革命をプロジェクトの中心とする私どもの事業においても、歴史に軸足を置きながら現在を解き明かすことが、より求められるものと思います。今後とも私どもの事業に御参加下さり、御意見をお寄せいただければ幸いです。

田中 正敬